# 中学生が音楽を聴きながら勉強することの実態調査

○平間裕補, 樋野大樹, 永幡幸司(福島大学)

## 1. はじめに

ながら勉強に関する研究や調査は多数行われてきているが、現代の中学生を対象に、なぜながら勉強をしているのかなど、生徒の実態を調査した研究は少ない.

そこで本研究では、中学生を対象に、どれくらいの生徒がながら勉強をしているのか、ながら勉強している生徒はなぜしているのかなど、現代の中学生のながら勉強の実態を明らかにすることを目的とした。ここで、ながら勉強とは、音楽を聴きながら勉強することとする。

#### 2. 方法

郊外の中学校として角田市立北角田中学校の 1~3年生の236名と,都会の中学校として仙台 市立長町中学校の1年生1クラス分32名を調査 対象者とし,アンケート調査を行った.

アンケートは5部構成となっており、本稿では第2部、第4部についての回答を検討対象とした。第2部では「隣の教室の音は気になるか」「教室の外から聞こえる音が学習の邪魔になるか」「集中力は続くほうか」「記憶力はよいほうか」「いつもよく眠れるか」「ストレスを感じやすいか」を尋ねた。第4部では、ながら勉強しているかどうかと、ながら勉強している理由について尋ねた。有効回答者数は259名(配布数の96.6%)であった。

# 3. 結果

表 1 に北角田中学校と長町中学校について各学年のながら勉強をしている生徒の人数を示す. 北角田中学校の 1~3 年生のながら勉強している生徒の人数について  $x^2$  検定を行った結果, 有意差が見られた(p<0.01). これより, 学年が上がるにつれて, ながら勉強をする生徒の人数は増加することがわかる. また, 有意差は見られなかったが, 長町中学校の生徒の方が, 北角田中学校の生徒よりながら勉強している生徒の割合が多い.

次に、各質問の回答について北角田中学校の 1~3年生を学年ごとに集計し、x²検定を行った.

表1 各学年のながら勉強している生徒の人数

	する	しない
北角田1年生	13 (18.6%)	57 (81.4%)
北角田2年生	23 (29.1%)	56 (70.9%)
北角田3年生	36 (48.0%)	39 (52.0%)
長町1年	9 (28.1%)	23 (71.9%)

その結果1年生だけに、教室の外からの音が学習の邪魔になるかどうか、集中力が続くかどうか、よく眠れるかどうかの回答と、ながら勉強しているかどうかについての回答に有意差が見られた(p<0.05). それぞれの回答結果を表 2~4 に示す.

表 2 より、ながら勉強する生徒はしない生徒に 比べ、学習時に教室の外からの音が気になると回 答している生徒が多いことがわかる。また後述の とおり、北角田中学校の1年生のながら勉強する 理由で「周りの音を消すため」「集中するため」 という回答が多いことから、学習中に他の音が気 になりやすい生徒は、より良い環境で勉強するた めに、ながら勉強をする傾向があると考えられる。

表3より,普段の睡眠について,ながら勉強しない生徒の評価は「眠れる」を頂点とする一山の分布であるのに対し,する生徒は「眠れる」と評価するものが少なく,「よく眠れる」と評価するものと,「眠れない」から「普通」の間で評価するものに分かれていることがわかる.

表 4 より, ながら勉強する生徒はしない生徒に 比べ, 集中力が続くと評価するものも, 続かない と評価するものも多い。これは, 睡眠の評価と同 傾向である。そして, 睡眠の評価と集中力の評価 の間には弱い有意な相関(r=0.38)がみられた.

松本らの研究[1]によると、睡眠の質が悪いと 集中力は低下する.しかし、今回の結果では、睡眠と集中力の間の相関は弱く、ながら勉強している生徒は、していない生徒より良く眠れない生徒が多いにも関わらず、集中力が続くほうだと回答している生徒が多い.これらより、ながら勉強している生徒の中には、音楽を聴くことで主観的には集中が続いていると感じているが、実際には集中できていないものがいる可能性がある.

次に、ながら勉強する理由について、1979年に行われた大場らの研究[2]と比較し、ながら勉強する理由が昔と現在で異なるのかどうかを検

大場らの研究では、ながら勉強すると回答した中学 1 年生および 2 年生 182 名を対象に、ながら勉強する理由についてのアンケートを実施している。質問の選択肢は 4 つあり複数回答可能としている。その結果を表 5 に示す。

今回,ながら勉強する理由については自由記述で尋ねたため,大場らの設問の選択肢と似た回答をまとめ,比較した.表6に北角田中学校と長町中学校のながら勉強する生徒の回答結果をまと

表2 ながら勉強するか否かごとの北角田1年生の教室の外の音が邪魔になるかどうか

1年生	1.	1. なる 2. や		ややなる	る 3. どちらで		4. あまりな		5.	ならない	合計			
					もない		らない		らない		らない			
する	1	(7.7%)	4	(30.8%)	2	(15.4%)	2	(15.4%)	4	(30.8%)	13	(100.0%)		
しない	0	(0.0%)	7	(12.3%)	7	(12.3%)	26	(45.6%)	17	(29.8%)	57	(100.0%)		

表 3 ながら勉強するか否かごとの北角田1年生のよく眠れるかどうか

1年生	1.	. 眠れな い		あまり眠 れない	3	. 普通	4.	眠れる	5.	よく眠れ る		合計
する	1	(7.7%)	1	(7.7%)	7	(53.8%)	1	(7.7%)	3	(23.1%)	13	(100.0%)
しない	1	(1.8%)	8	(14.0%)	14	(24.6%)	25	(43.9%)	9	(15.8%)	57	(100.0%)

表 4 ながら勉強するか否かごとの北角田1年生の集中力が続くかどうか

1年生	1.	1. 続かない		2. あまり続		. 普通	4. やや続く		5.	-		合計
+7	1	(7.7%)	2	かない (23.1%)	2	(23.1%)	C	(46.2%)	0	(0.0%)	10	(100.0%)
する	1	(7.7%)	3	(23.1%)	3	(23.1%)	6	(46.2%)	U	(0.0%)	13	(100.0%)
しない	3	(5.3%)	7	(12.3%)	37	(64.9%)	8	(14.0%)	2	(3.5%)	57	(100.0%)

めたものを示す.

大場らは「周囲のうるさい音を消すため」「勉強の能率をあげるため」と回答した生徒を「勉強主体型」、「音楽を聴きたいから」と回答した生徒を「音楽主体型」とまとめている。1979年の中学生は「音楽主体型」の生徒が54%を示すのに対し、2015年の中学生で「音楽主体型」の生徒はいなかった。また、「勉強主体型」の生徒は22%から61%に増加している。これらの結果より、1978年の中学生と、2015の中学生とではながら勉強をする理由が異なることが分かる。1979年の中学生は勉強することよりも音楽を聴くことに重点を置くが、2015年の中学生は、音楽を自分が集中して勉強しやすい音環境を整えるための道具として使う傾向が高い。

#### 4. 考察

ながら勉強する生徒は学年が上がるにつれて増加し、ながら勉強する生徒としない生徒の間に、1年生にのみ有意差のある回答が見られた. 低学年でながら勉強をする生徒は、しない生徒の平均的な傾向からはずれる生徒が多く、指導するときには注意する必要があると考えられる. また、ながら勉強をした方が良いかどうかを判断するには、生徒の主観的な評価ではなく、音楽を聴く理由や成績など、実態を把握することが大切であると考える.

さらに、今回の調査では、時代が変化するにつれて、中学生と音楽との関係が変化していることがわかった。現代の中学生は、音楽をより集中できる環境で勉強するための道具として使っている生徒が多い。これは、インターネットや携帯音楽プレイヤーの普及により、中学生にとっても音楽がより身近なものになったためなどの理由が考えられる。

表 5 1979 年のながら勉強する理由

質問項目	人数			
周囲のうるさい音をけすため	24	(10%)		
勉強の能率をあげるため	25	(11%)		
たいくつさをまぎらわすため	58	(25%)		
音楽をききたいから	128	(54%)		
合計	235	(100%)		

表 6 2015年のながら勉強する理由

質問項目	人数			
周囲のうるさい音を消すため	12	(13%)		
勉強の能率をあげるため	46	(48%)		
たいくつさをまぎらわすため	16	(17%)		
音楽をききたいから	0	(0%)		
安心するため、落ち着くため	14	(15%)		
その他(癒される,など)	7	(7%)		
合計	95	(100%)		

### 謝辞

本研究を進めるにあたり,ご協力頂いた北角田中学校, 長町中学校の皆様に感謝致します.

#### 参考文献

- [1] 松本禎明, 佐藤沙紀, "睡眠を指標とした大学生の 生活実態と教育的支援の必要性に関する研究" 九 州女子大学紀要第50巻2号, 151-168 (2013).
- [2] 大場義夫,川端徹朗,丹公雄,"騒音と B.G.M.が 知的作業に及ぼす影響に関する実験的研究(第 2 報)"東京大学教育学部紀要17,125-133 (1979).

#### 【連絡先】

永幡幸司

福島大学 共生システム理工学類 〒960-1296 福島県福島市金谷川 1 番地 Tel:024-548-5154 Fax:024-548-5154 E-mail: nagahata@sss.fukushima-u.ac.jp